

「楽しい」が
理解を通じた
「面白さ」に
変わる日を目指して



科学は、たのしい!

かがわけん科学体験フェスティバル

KEYWORD

かがわけん科学体験 フェスティバル

香川県内の児童のために開催される科学体験行事。理科教育に関わっている先生や、県、教育委員会、大学、産業界の支援・協力のもと行われており、毎年様々な体験教室や講演が企画されている。今年11月8・9日に行われたフェスティバルには4000人近い入場者が訪れた。

と通じるところも大きいですね。
投げかけられるであろう質問の答えをどれだけ想定していても、実際に講座を行ってみると、予想外の反応が返ってきたり実験器具を触ることに夢中になったりで、学生は自分に注意をひきつける難しさを知るそうです。北林先生はじめ教育学部の理科の先生方を前にリハールを行って修正を繰り返しながら、何を、どこまで、どのように伝えようかという悪戦苦闘の日々は続き、イベント前日の真夜中まで議論が白熱したといえます。

「このイベントが楽しかったから、すぐ理科の授業が好きになって、できるようになるか?というところ、そういう事ではない。今、社会は理科についてもっと考えようという雰囲気になっています。

『理科離れ』と言いますが、これは子どものせいではなく、そもそも大人が理科から離れていることが大きい。このイベントでは大人にも理科のいろんな面をとらえ、理解を深めてもらいたいです」と北林先生。親子で1日かけて色々な講座に参加する子どもたちの笑顔や、親が「家でも一緒に作れるように」と作り方を確認しに来てくれたときに学生たちが感じた『手ごたえ』は、まさにこのイベントがそんな変化を起こすきっかけになっている、という証なのかもしれません。

香

川大学には博物館や香大祭(学園祭)など、一般の人が気軽に訪れることができる場所やイベントがあります。その中でも特に子どもや親達が楽しみにしているのが、11月に行われる「かがわけん科学体験フェスティバル」です。

平成5年から毎年県内を巡回して開催されてきたこのイベントは、平成14年度から香川大学教育学部が会場となり、今年で16回を迎えました。企画される30以上の科学体験を指導するのは、県内の教員や高校生・中学生、サイエンスボランティア、企業の皆さん、そして香川大学の教育学部と工学部の学生、院生の皆さん。実行委員長の北林雅洋先生や教育学部の実行委員の学生たちは、その運営と同時に毎年3年生を中心に講座の企画にも取り組んでいます。

「例年9月は教育実習と重なるので、学生が準備に取りかかれるのは10月から。授業もハードになる頃なので厳しいと思いますが、学生達はよく頑張っています。理科の先生を目指している彼らにとって、実際に授業形式の講座を行うことはいい経験にもなるでしょう」と北林先生。

体験講座を開く学生たちは、まず「身の回りのものを使って科学の入り口に触れられるもの」「家でも挑戦できるもの」であることを前提にアイデアを出し合い、子どもにとって安全か、楽しいかという基準で絞り込みを行っていきます。もちろん、ただ楽しいだけではなく、理科の概念の何を伝えたいか、ということが大事。子どもの反応を想像しながら分かりやすくなるための講座を作り上げる過程は、学校の先生の授業づくり